

イタセンパラってこんな魚

●絶滅の恐れのある希少な魚です

- ◎日本にしかない魚で、国内でも濃尾平野を含む3つの地域だけに分布しています。
- ◎いずれの地域においても絶滅が危惧されている希少な魚です。国の天然記念物にも指定されています。許可なく、採ったり・飼ったりすることは法律で禁止されています。

●木曽川ではワンドにすんでいます

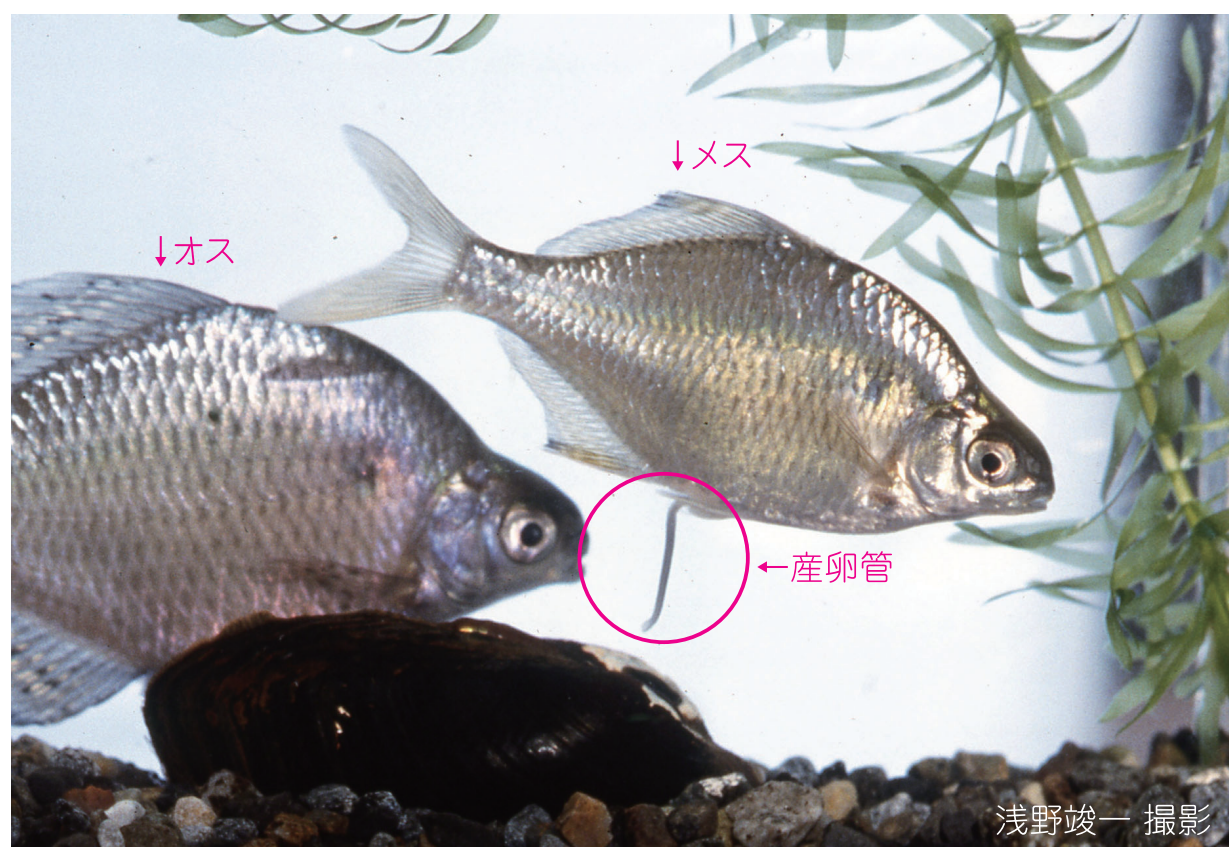
- ◎かつては木曽川・長良川・揖斐川を中心に、濃尾平野に広く生息していたと考えられます。しかし現在では、木曽川中流部の限られた場所でしか確認されていません。
- ◎木曽川では、流れがゆるやかな「ワンド」や「たまり」とよばれる場所にすんでいます。木曽川では、ワンドの生きものを守るため、環境をよくする工事などが行われています。

●貝に卵を産むタナゴのなかまです

- ◎イシガイ、ドブガイ類などの二枚貝に産卵する「タナゴ（コイ科タナゴ属）」とよばれる魚のなかまです。
- ◎繁殖期は秋（9～10月ごろ）で、二枚貝（イシガイ、ドブガイ類など）に産卵します。寿命はおおよそ1年で、繁殖後には死亡します。



【オス】繁殖期（9～10月ごろ）になると婚姻色を表し、体は光沢のある紫色になり、腹部と臀ひれの縁は黒く染まります。

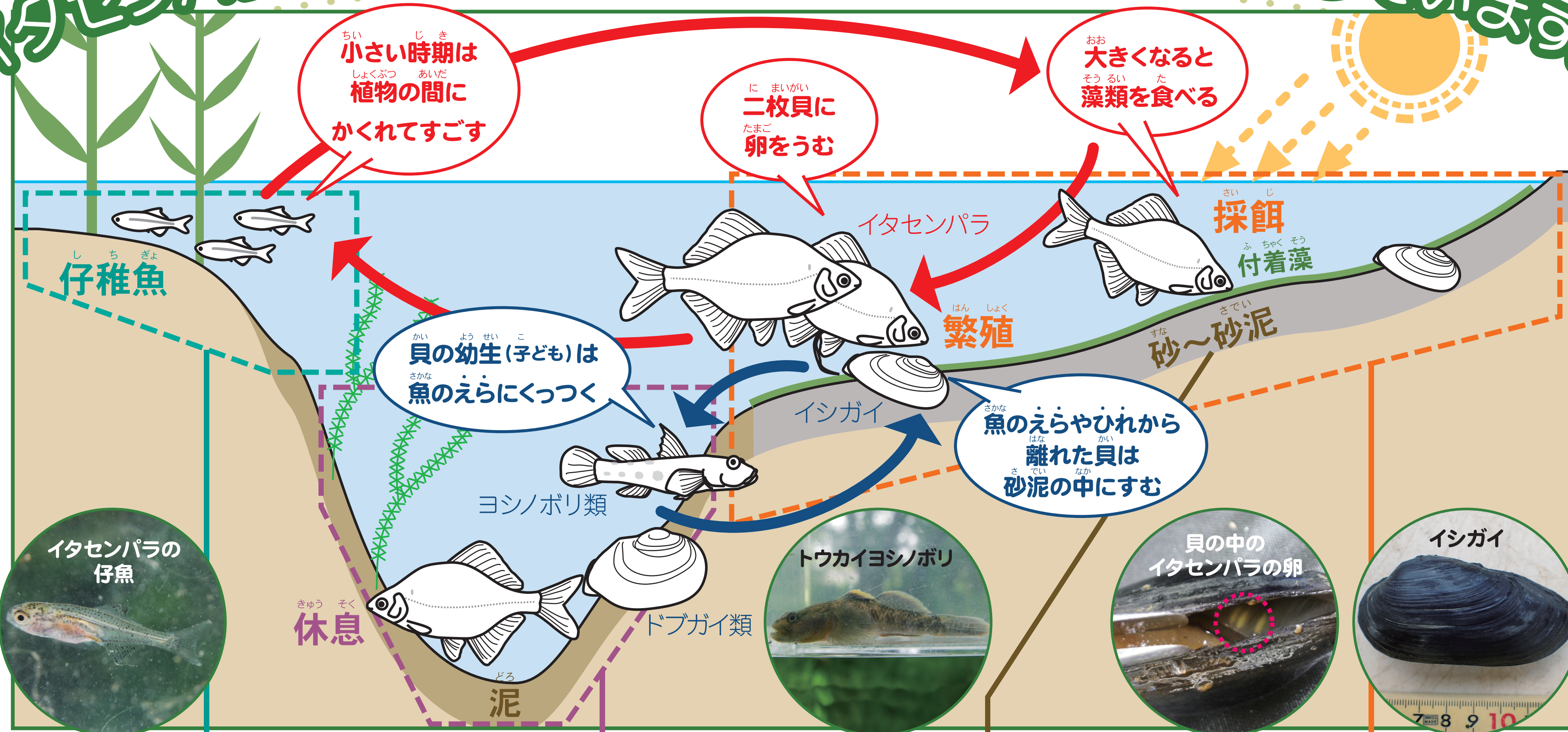


【メス】オスのような婚姻色にはなりません。繁殖期になると、卵を二枚貝に産み付ける産卵管を伸ばします。



【木曽川中流部のワンド群】河川の水際にできた水たまりのような環境で、本流よりも流れがゆるやかです。

イタセンパラは、いろんな生きものに関わりながら生きています。



【水際の植物】 仔稚魚（小さい時期）は、水際の植物のあいだにかくれてすごします。	【深い場所】 鳥などの捕食者から隠れたり、休息するために、水深の深い場所を利用します。	【砂～砂泥底の場所】 二枚貝はヘド口が溜まっていらない、砂や砂泥の場所に生息します。	【浅い場所】 日当たりのよい場所に生える藻類を食べ、浅場にいる二枚貝に産卵します。
--	---	--	---

イタセンパラの生活に必要なワンドの環境

イタセンパラは、二枚貝に産卵するタナゴ類のなかでもめずらしく秋に繁殖し、貝のなかで孵化した仔魚は、冬の期間を貝のなかで過ごします。春に貝から泳ぎ出してしばらくは水際植生周辺で過ごしますが、成長すると水底の付着藻類を食べようになり、秋になり成熟して繁殖を終えると死亡する「年魚（ほぼ1年で寿命を終える）」です。また、二枚貝は、幼生のうち一時期を、ヨシノボリ類などの魚類のえらやひれに寄生して過ごします。イタセンパラを保全するためには、イタセンパラの採餌場や休息場などの生息環境を維持・保全するのみでなく、二枚貝やヨシノボリ類なども生息できるよう保全して必要があります。



木曽三川流域生態系ネットワーク推進協議会は、川とともに育まれてきた流域の自然や文化を保全・活用し、地域の魅力を向上させるとともに、人と自然・人と人との絆を深めることを目的とし、流域の自治体、河川管理者、有識者によって、平成26年度に設立されました。また、木曽三川流域において、自然環境を保全・再生・創出してつなげる「生態系ネットワーク形成」に関する活動を行う（または賛同する）、地域のさまざまな団体等に参加していただく「木曽三川流域エコネット応援団」を結成しています。応援団の皆さんの活動に関する情報共有等を図ることにより、地域の交流・協働を促進し、取り組みのさらなる発展を目指します。



「木曽三川流域生態系ネットワーク」ホームページ <<http://www.cbr.mlit.go.jp/kisojo/econet/index.html>>